

学びたい、もっと深めたい!同志社大学大学院経済学研究科はその衝動に確かに応える学び舎。
 学びの幅が広く、様々な切り口から経済的手法で分析を行い、理論を編み出していくことができます。
 あなたの好奇心をさらに広げ、学びの喜びにふれてみませんか。

POINT 03 / Facility

学びの環境の充実

落ち着いた学べる共同研究室、欲しい文献がそろう経済学部研究室図書室など、施設の充実ぶりも学びやすさの一つ。自らの学びスタイルに合う環境を得られます。

共同研究室

大学院内に共同研究室が設けられています。机と書架が配備されており、研究に関する書籍等を置いておくことができます。月曜日から土曜日の9時から22時まで使用することができ、申請すれば日曜日も使用可能。パソコン・プリンターも共同研究室内にあり、研究に集中できる環境が整っています。



経済学部研究室図書室

教員・大学院生用の図書等を所蔵している図書室もあります。経済関係の資料が専門書を中心にそろい、大学院生たちの学びをサポートします。学術図書の購入依頼もできるので、欲しい文献を手に入れやすく、研究がスムーズに進めていくことができます。



POINT 04 / Career

就職活動

研究活動しながら、将来に向けて就職活動を進めていくことができます。
 志望する業界に向けたアプローチなどについても担当教員等が支援します。
 また、後輩への指導などを通して、教える力も培うことができます。

希望の就職に向けてサポート

研究を活かしたい、培った知識や語学力を活かしたいなど、大学院を修了後に進みたい道も様々。一人ひとりが未来を拓いていけるよう、いつも側には相談できる担当教員がいます。研究との両立について、就職活動の進め方などをアドバイスしてもらるので、安心して将来を考えることができます。

研究を深め、能力を高めるTA

学部生のゼミに、TA(ティーチングアシスタント)として参加するアルバイトをする大学院生もいます。論文に対する指導などを通して、自らの学びにもなり、研究のリソースを増やす、指導力が上がるなど、様々な力を得ることができます。

■就職活動スケジュール

時期	内容
M1 5月~6月	M1 インターン向けの合同説明会開始
M1 8月~9月	M1 サマーインターンへの参加
M1 10月~11月	インターン参加企業での本選考面接開始・内定
M1 3月~	経団連加盟企業 企業情報解禁
M2 4月~	説明会・面談 など
M2 6月~	経団連加盟企業 企業面接開始・内定

大学院におけるキャリア形成支援について

経済学研究科の特徴的な取り組みとしてキャリア支援連携セミナーを開催しています。このセミナーは、大学院生が「仕事」に対する具体的なイメージをもつこと、そして将来の夢を抱く機会を提供することを目的としたものであり、2017年度までに次のようなテーマで、企業から講師を招き、講演の機会を設けてきました。

テーマ

- グローバル企業におけるキャリア形成
- 放送局のビジネスモデルとキャリア形成 —これからの放送局のビジネスモデルに必要な人材とは—
- 経験価値創造ビジネス —テーマパーク事業における戦略と人材—

2018年度からはキャリア支援連携セミナーを発展させ、ALL DOSHISHA教育推進プログラムとして、「産官学連携を中核としたキャリア形成プログラムの策定」に取り組むこととしており、大学院におけるキャリア形成支援の一層の充実をはかることにしています。

質を担保した人物の育成

- グローバル化への対応
- 専門分野の知識習得

キャリア選択機会の増加

- 就職ミスマッチの解消
- 就「社」活動から脱却

インターンシッププログラムおよびそれを補完する講座、キャリア形成科目で構成するキャリア形成プログラムを構築

プログラムの構築に際しては、経済学研究科の定める人材養成目的、ディプロマ・ポリシーに合致した人物を育成するとともに、企業の求める人物像を調査し、到達目標を定めています。また、経済産業省の提唱する社会人基礎力(3つの能力/12の要素)の習得だけでなく、基礎学力、専門知識に加えて、それらをうまく活用する力の育成にも留意します。

<参考>

社会人基礎力(3つの能力/12の要素)

- ・前に踏み出す力(アクション): 主体性・働きかけ力・実行力
- ・考え抜く力(シンキング): 課題発見力・計画力・創造力
- ・チームで働く力(チームワーク): 発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力

人材養成目的

経済学研究科博士課程(前期)は、理論経済学専攻と応用経済学専攻を設置し、本研究科の長い歴史に培われてきた研究教育環境の下で、新しい時代に対応する経済学の専門知識に裏付けられた、高度な分析能力と応用力を有する専門職業人および研究者を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

(知識・技能)

多様な先行研究・関連研究から十分な専門的知識・分析技法を習得し、国内外の経済および経済学が直面する新しい理論的・制度的・歴史的な課題を理解できる。

(思考力・判断力・表現力)

研究課題に対して合理的な分析方法を選択し、その結果を客観的かつ一貫した論理として構成し、学術論文として適切な形式で、問題解決方法を示すことができる。

(主体性・多様性・協働性)

良心と広い教養を裏付けに、複雑化・高度化する経済に対する自らの研究の意義を自覚し、多様な知識・技能を有する人びととともに問題解決に取り組むことができる。

新たな取り組みとして、入学式の翌日に2018年度の新入生を対象にしたキャリアに関するガイダンスを実施し、「活躍する若手社会人の条件とは?」というテーマで、経営コンサルティング会社(一部上場企業)から講師を招き、講演および質疑応答を行っています。

大学院についてのさらに詳しい情報はHPをご覧ください。

<http://www.econ.doshisha.ac.jp/>



同志社大学大学院経済学研究科

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 TEL:075-251-3521 FAX:075-251-3136

※取材対象のプロフィール、紙面内の大学院生の学年は取材時のものです。

その好奇心が、
次代を動かす。

経済学 に感動を。



同志社大学
大学院
経済学
研究科

Doshisha University
Graduate School of Economics



魅力あふれる学びの要素

POINT 01 / International

国際力を養う

参考文献や授業は英語が中心。留学生との国際的な交流も日常的で、自然に語学力、コミュニケーション力が育まれる環境で学ぶことができます。

PSE科目

国際人としての活躍が期待される大学院生たちの未来。英語で議論できる力を自然と身につけられるよう、PSE(プロフェッショナル・スタディーズ・イン・イングリッシュ)という科目が設けられています。授業の約3割が英語で行われ、使用する文献も英文なので、日常会話はもちろん、国際的なビジネスの場でも臆することなくコミュニケーションできる英語力を養うことができます。

■ PSE科目の一例 (2018年度)

- ・基礎マクロ経済学Ⅰ
- ・基礎計量経済学
- ・社会政策
- ・欧米経済史
- ・コンテンツ産業論
- ・家族の経済学
- ・エコロジー経済学
- ・[応] コンテンポラリー・スタディーズⅡ-1 (ツーリズムと環境)

英語科目

海外の文献や論文に目を通したり、国際学会で発表を行うには、鍛え抜かれた英語力が必要になります。経済学研究科では総合的な英語能力を高めるために、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションの4つの英語科目が開講されています。授業はすべて英語で行われます。ライティングとプレゼンテーションでは書き手、話し手の意図が伝わる文書構成を学びます。リーディングでは学術論文だけでなく、小説・ニュースなど、幅広い文章に親しみ、ディスカッションでは様々なテーマについて英語で話し合いを行います。どの授業にも発表の場が用意されているので、英語で伝える技術が自然と身につきます。

グローバルな取り組みを支援

長期休暇などを利用して、留学や海外インターンシップへのチャレンジなどを自由に行うことができます。海外での学びなどについて、担当教員と話し合いアドバイスももらうことも可能です。また、海外協定大学との学術交流も盛ん。高い言語能力を修得し、国際的な見識を深めていくチャンスがたくさんあります。



対談

教員 × 大学院生

研究を通して学識を深め、視野を広げ次代を自ら創る人材に。

同志社大学大学院経済学研究科では、どのように学び、未来を拓いていけるのか。大学院生の丹野智世さんと新聞教授にお話いただきました。



新聞 三希代教授

丹野 智世さん

学びのフィールドを広げ発信力を身につけるため大学院に。

丹野 私は同志社大学経済学部の出身で、在学中は新聞先生のゼミに在籍していたので、今日はお話できることをとても楽しみにしていました。
新聞 私も楽しみにしていましたよ。丹野さんは、とても優秀で、国際的な視野を持って、色々なことにチャレンジするアクティブな学生という印象です。



丹野 ありがとうございます。学部時代は、先生のゼミでファイナンスを学び、基礎的な経済学の考え方を身につけることができました。ロジカルな物事への考え方、リサーチやデータの立証方法などが、今すぐ活かしているんです。
新聞 経済学研究科で取り組む修士論文にすぐ求められるスキルですからね。丹野さんは学部生時代に留学もしていましたね。
丹野 イギリスのシェフィールド大学に1年間派遣留学しました。留学先での経済学の授業で日本と他国を比較したことがあったのですが、その時に、世界的に見て日本の存在感が薄らいているのを感じたんです。日本にはたくさんの文化資源があるのに認知している人が少ないのは悲しいと思い、大学院で文化経済や文化政策を学ぼうと決めました。でも就職と迷ってしまっ...
新聞 相談に来てくれましたね。あなたの幸せのため悔いを残してほしくないからと、背中を押しました。
丹野 先生の言葉で前向きになり、大学院進学を決意できたのです。感謝しています。

幅広いテーマに対して的確な指導が得られる充実の学び環境。

丹野 同志社大学の大学院経済学研究科には、文化経済・文化政策を専門として最先端で活躍されている先生がたくさんおられるので、進学を決めました。

新聞 国際学会でも活躍される先生が多いですね。今の研究課題は？
丹野 広報文化外交(Public Diplomacy)とソフトパワー論をテーマとし、魅力的な国のイメージを生み出す外交手法について考えています。修士論文のテーマは「アメリカと日本のソフトパワー政策の比較」です。

新聞 学部時代のイギリス留学がきっかけで大学院進学したようですが、なぜイギリスではなくアメリカだったの？

丹野 大学院1年時、外務省の事業で海外インターンシップに参加した先がアメリカだったんです。そこで実際にアメリカのソフトパワー政策を実施しているNPOと関わったことで、リソースをたくさん得られたので、アメリカとの比較にしてみました。

新聞 なるほど、そうだったのね。自分でテーマを見つけ出し、学びを自ら進めていけるのが大学院の学びの面白さですね。

丹野 はい。私の他にも、経済成長理論、数理経済学、資本主義、政治経済学、税金など、大学院生たちはそれぞれのテーマを持っています。

新聞 本学の大学院経済学研究科の特徴の一つとして学びの幅広さが挙げられます。一見、経済学からかけ離れていそうな事業でも、経済学的な分析手法を使うことで色々な研究に広がっているんですよ。



丹野 文化経済と京都のお茶文化を繋げたユニークな研究をされている人もいて本当に幅広い。そして先生がみんな熱心。授業も少人数で質問もしやすいです。

新聞 経済学研究科の教員はみんな学生が大好き。一人ひとりに時間をかけて指導することを楽しんでいるんです。

丹野 第一線で活躍される先生とディスカッションできるなんて、本当に贅沢なこと、ますます学びに身が入ります。研究に没頭できて楽しいですね。授業ごとの文献のリーディングには時間を費やすので大変ですけど(笑)。文献はほぼ英語なので、読んだり、自ら英語で論文をまとめることで、ディスカッションできるほどの英語力も自然につきます。

新聞 そうでしょうね。大学院で学ぶ限り、英語でのコミュニケーションができることは当然のこと。授業でもリーディング、ライティングを自由に履修できるし、皆さん様々な活動を通して自然な英語力を身につけていますよね。あと、同志社大学内で経済学関連のシンポジウムなどもありますか？

丹野 よく参加しています。学内で行われるのは参加しやすく本当にありがたいですね。また、今は新聞先生のゼミのTA(ティーチングアシスタント)もさせていただいています。

新聞 丹野さんは後輩の論文執筆に必要な資料の指示や分析方法の指導も的確で信頼しています。教員でもおかしくないくらいですよ。

丹野 ありがとうございます。学部生への指導で、私自身の学びもさらに深まっているのを感じています。



研究活動を続けながら海外インターンシップへの参加も。

新聞 先ほどもお話ししてくれた海外インターンシップでも、たくさんのことが得られたようですね。

丹野 はい。外務省の事業に志願して2ヶ月間、アメリカでインターンシップを経験しました。私が携わったのは、アメリカ国務省傘下のNPO法人が主催する様々なプログラム運営のお手伝い、あと翻訳です。

新聞 具体的にはどんなことをしたのですか？

丹野 プログラム運営のためのゲスト招聘に伴う様々な手配が主でしたが、日本文化を教えるプログラムや、日本庭園を作るプログラムにも参加しました。お祭りなどの広報のお手伝いもしましたよ。

新聞 文化経済の交流にも関わられたんですね。自身の研究に近いことができただけじゃない？

丹野 そうなんです。実は希望していた仕事先ではなかったんですが、実際に取り組んでみると自分の研究とダイレクトにつながるところも多く夢中になりました。

新聞 以前、華道を熱心に学んでいらした、丹野さんなら日本の精神をうまく海外の方に伝えられたでしょうね。気持ちに変化はあった？

丹野 この経験で国際的に活躍したいという思いがさらに強くなりました。実はインターンシップに赴く前にすでに就職活動を終えていて、外資系のコンサルタントに内定していたのでさらに頑張ろうと。

新聞 コンサルタントなら、培った国際的視野も語学力も生かされるし、経済学研究科で培ったリサーチスキルなども活かそうですね。

丹野 はい。経済学研究科での学びを活かし、日本という国を高められる発信ができるような人材となって、世界にインパクトを与えられる仕事をしたいことが夢です。

新聞 素晴らしいですね。就職はゴールではなくてスタート。次の目標を見つけて、さらに輝く女性になってください。丹野さんならきっとそれができるはずだから！

丹野 はい、頑張ります。今日はありがとうございました。



新聞 三希代教授

丹野 智世さん
経済学研究科 2年次生

学びの多様性

経済学研究科の特徴の一つとしてあげられるのが、幅広い学びができること。

大学院生たちはそれぞれ様々なテーマを持ち、担当教員の指導のもとで、独自に研究を深めています。

やりたいに応える環境

様々なテーマに対して、経済学の分析手法を使って、理論を立証していくのが経済学研究科の学び。同志社大学大学院にはたくさんの教員がおり、学生が抱えているテーマに対して学術的に確かに答え、未来へ導きます。経済学研究科で軸となるのが論文演習・修士論文。指導してもらいたい教員を選び、直接指導を受けて、論文制作を進めていくことができます。論文の中間報告会などでは複数の教員からのアドバイスをもらうことができ、自らのテーマを様々な視点から考えていくこともできます。大学院生たちの専門分野が様々なように、修士論文のテーマも様々。幅広い学びに対してアプローチできる教員がおり、学びへの欲求を満たすことができます。



■ 論文演習・修士論文の進め方

時期	内容
M1 秋：コース選択	自身の研究分野の領域を決める
M1 秋：指導教員選択	研究分野に詳しい教員に指導をお願いする
M2 春：論文演習開始	定期的にアドバイスをもらう時間を作る
M2 秋：修士論文中間報告会	修士論文の進捗状況の報告
M2 1月頃：修士論文提出	論文提出

■ 修士論文テーマ例

- ・中国情報通信機器産業の国際競争力
- ・地域から広がるパブリック・ディプロマシーの可能性
- ・公共文化施設を軸にした都市の再生と発展 -せんだいメディアテークの挑戦-
- ・親子の信頼関係は子の所得に影響を及ぼすか
- ・一幼少期における家庭内のコミュニケーションと学歴及び所得との関連について
- ・なぜ日本の演劇では前売券を割引く商習慣が生まれたか
- ・一インセンティブ付与の解明

POINT 02 / Learning